

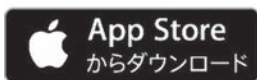
加茂川一斉清掃 (6月2日 葵橋左岸側から上手)



マチイロ



まちを好きになるアプリ



アプリで広報紙の
配信を始めました

(裏表紙) 12ページ下段をご覧ください。

主な内容

■市長所信表明	26
■「洪水ハザードマップ」	7
■市民大学講座	8
■加茂川一斉清掃	9
■カメラスケッチ	10
■歯の健康	11
■加茂の風土記	12

市長 所信表明

六月二十日、市議会6月定例会において、藤田市長が所信表明を行いました。当日は市長の所信表明を聴くため、傍聴席には開会前から空席がなくなり、市民の関心の高さがあらためて感じられました。

以下にその全文を掲載します。



所信表明を行う藤田市長



加茂市議会 議場



多くの市民の皆様が傍聴に訪れました

所信表明

令和元年6月定例会が開催されるにあたり、私の市長就任後、初めて市政運営について所信表明の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、4月の市長選挙におきましては、市民の皆様からの温かく、多大なるご支援のおかげで加茂市長に就任することができました。改めてその職責の重さを痛感し身の引き締まる思いであります。そして令和という新しい時代に市長に就任できましたこと、大変光栄に思います。

私にとって、市政運営は初めてですが、加茂市議会議員として得た経験とこれまで出会った先輩方や仲間を大切に、これからの4年間、市民の皆様幸せのため、ふるさと加茂市の発展のため身を削る思いで全力を尽くしてまいりますので、どうか議員の皆様並びに市民の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、加茂市を含め地方自治体を取り巻く社会経済情勢は大きな転換期を迎えています。Society（ソサエティ）5・0と言われる、IoT、ロボット、AI、ビッグデータといった先端技術を取り入れた社会の変化の波が、これから加茂市にも間違いなく押し寄せてきます。

しかし、その変化は恐れるものではなく、その先端技術がこれまで解決できなかった課題を解決する有力な手段となるかもしれません。私は、新しい発想で課題を解決し、持続可能な加茂市をつくり上げていきたいと考えています。人口減少、少子高齢化：何度も何度も耳にした言葉だと思います。そして私自身も何度も何度も口にしてきました。加茂市の人口は5月末現在で2万7千人を割り込み、今の人口動態のまま推移した場合、2040年には約1万8千人まで減少すると見込まれています。簡単に解決できる課題ではありませんが、人口が減少していく市の現実に対して正面から向き合い、次の世代のためにも解決する道筋をつけてまいります。

それでは以下、市政運営の方針について、先般の市長選挙におきまして約束させていただきました主要な施策と方針のもとにある想いを申し述べます。

全ての基本姿勢、施策のもとにある想いは、『**未来への責任**』です。

まずはじめに、市政に対する基本姿勢について三つキーワードを申し上げます。

一つめは、『**市民参加型**』です。まちづくりや市の課題解決の場面では、私や市の職員でできることは限られています。市民の皆様のご意見を聞く機会を多く持ち市政に反映していきます。また、「市長との座談会」を開催し、それ

ぞれの地域や各団体の皆様との対話を心がけ、市民の皆様が開かれた透明性のある市政を目指します。

二つめは、『**人づくり**』です。課題に正解があつてそれを探し求めるといふ時代は終わりました。正解がない課題に対して自らの考えを持ちそれを相手に伝え、同時に相手の考えを聞き共に解決していく力が子供にも大人にも求められています。市政を支えるのは、「人」です。子供も大人も持てる力を十分に発揮できるように、頑張りたいと思つている人を後押しし、苦しい状況にいる人には寄り添い支えます。

三つめは、『**連携**』です。人の流れ、物の流れは加茂市の中で完結するものではありません。全ての「人」「もの」「こと」がお互いに関りを持っています。地方自治体も同様です。私は、近隣市町村、県、国としっかり連携し、加茂市と他の地域の良さを認め合い、積極的に加茂市から情報発信していきます。また、地元の産業界や大学と連携し地域の魅力を発掘していきます。

次に、個別の施策についてです。

1. **子供から高齢者まで安心して暮らせるまちにするために**

・誰もが希望を持てる未来を創造するため、中長期計画を策定し、財政健全化、基金の積み立てをいたします。

- ・ 9月に開院する新加茂病院を中心に地域医療体制を充実 させるとともに、健康寿命を伸ばすため、官民一体となり市民の皆様の健康づくりを推進します。

- ・ 近年増加している自然災害に備え、ハザードマップの作成、自主防災組織の育成、避難訓練など地域コミュニティを活かした防災・減災の仕組みを作ります。

- ・ 障害者自立支援協議会を立ち上げ、障がいがある人が地域で働き、暮らしやすい体制づくりを進めます。また、違いを認め合える共生社会を目指します。

- ・ 老朽化した「清掃センター」の新設計画を作り、ごみ処理問題を解決します。
- ・ 元気なシニア世代がボランティア活動に取り組みやすい環境を整えます。

これらは今、加茂市にある課題です。これらの政策を早期に実行することで市民の皆様が安心して暮らせるまちを作っています。

2. 教育の質の充実で子育て世代に選んでもらえるまちにするために

- ・ 英語教育・特別支援教育の充実、部活動

の外部指導者の導入などで市内小中学校の教育環境を整えます。

- ・ 子ども支援課、ワンストップ相談窓口の創設など、妊娠、出産から子育てまで、切れ目ない支援を行い、安心して産み育てられる環境を整えます。

- ・ 生涯学習、資格取得など大人になっても学びたい人を応援します。

ここでは詳しくは述べられませんが、教育と子育て支援が私が一番力を入れたい分野です。

3. 市民全員が活気あふれる豊かなまちにするために

- ・ 良質な宅地開発、コンパクトなまちづくりを進め、若い世代が定住できる環境整備を進めます。

- ・ 積極的に企業誘致をし、若者が働く場を確保します。

- ・ ふるさと納税制度を改善し、市の収入を増やし、加茂市の魅力を発信します。

これらの政策を進め、定住人口、交流人口の拡大に努めてまいりたいと思います。



春の加茂山公園



須田憩いと遊びの広場

私は選挙期間中、市長を任せていただければ「泥水をすすする覚悟だ」という表現をしてきました。これには三つの意味があります。一つめは、市内外に積極的に向き、市民の皆様のために身を粉にして働くこと。二つめは、自らの報酬をカットすること。三つめは、変革の結果出てくるいかなる批判も全て私が受けるということなのです。

この気持ちは今でも変わりません。さらに、市長に就任し一か月と十日ほどが経ち強く思うのは、加茂市の財政状況がかなり厳しいということです。これは私の予想以上でした。特に今年度は綱渡りの状態であり、手を打たなければ転落するかもしれないというところにいます。また、施設の老朽化が激しく進行しています。修繕をして施設を維持するのか使用を中止にするのか、判断を迫られる施設が出てくると予想されます。改めて、行財政改革を強い気持ちを持って行うという覚悟を決めた次第です。

一方で、私はこれまでの市政とこれからの市政の調和をはかりたいと考えています。それゆえ、変える政策と変えない政策、変える政策の中でもスピード感を持って変え

る政策、議会と市民の皆様と時間をかけて話し合ってから変える政策に分類していく必要があります。

そして、そのような行財政改革を行うには、その過程が透明性のあるものでなければいけません。しっかりと現状分析をし、市民の皆様が納得のいく解決策を示し、成果を出していきたいと思えます。さらに、7月より定例記者会見を行うなどして市の方向性をより広く市民の皆様が発信していきます。

市の組織も少しずつ変えていきます。現在、市の職員数は232人、ピーク時より百人ほど減りました。限られた人員の中で市民サービスの向上をはかるには、組織の中の効率化を進め、職員一人ひとりの力を信じ高めていくことが私の役目であると考えています。そして、積極的にまちに出て課題を見つけ解決する力や加茂市の良さを引き出す政策立案能力を持った組織に変えていきます。

市議会議員の皆様におかれましては、皆様それぞれ得意分野や地域の課題をお持ちのことと思えます。一般質問や委員会での質問は、その内容だけでなく質問する時期



加茂市役所 庁舎



就任一か月の記者会見の様子（6月10日）

も市政を大きく左右する時があります。それゆえ、議員の皆様は皆様の言葉一つひとつは非常に重いと認識しています。市政に対し、時には大きな後押しが、時には慎重にせよという言葉があってもよいと思っています。議会と執行部はよく車の両輪に例えられますが、輪が同じ大きさでなければ前進しません。私も議員の皆様とできる限り情報共有をこころがけ、丁寧（ていねい）な議論をするよう努めてまいります。議員の皆様には今のお立場からの政策提言や行政のチェックを心から期待しております。

繰り返しになりますが、加茂市の財政状況は非常に厳しいです。しかしそのような中でも、これまでの常識から脱却し大胆な発想や新しい概念を取り入れることで今の大変な時期を乗り越えられるかもしれません。いえ、必ず乗り越えます。どうか市民の皆様、市議会議員の皆様、お力とお知恵をお貸しくください。

結びに、私の大好きな絵本をご紹介しますと思います。それは、『ぜつぼうの濁点』という言葉あそびの絵本です。『ぜつぼう』という主に仕えていた濁点（「ぜ」についている点々）は自分がいるから主はいつまでたっても絶望したままなんだと悩み、新しい主を探す旅に出ます。様々な言葉に出会いますが、うまく付くことができません。しかし最後に出会った言葉にその濁点（ッ）が付くことで素敵な言葉に変わり場面が明るくなります。どのような言葉ができたのかネタバレになるのでラストは話しません、こ

れからの加茂市もきつとそのラストの言葉で満ちた市になると信じています。

私が絵本の読み聞かせサークルに所属して十年以上経ちました。この絵本もそのサークル仲間から教えてもらいました。加茂市にはこのように市民のためであったり、ご自身の楽しみのために精力的に活動されている方がたくさんいらっしゃると思います。その方たちを通して感じるのは、市民の皆様がこのまちの主役なんだということ、そしてその一人ひとりの力を合わせれば大きな力になるということです。加茂市の一番の宝は加茂市民の皆様です。

私は必ず加茂市の財政健全化を成し遂げ、市民の皆様が安心して暮らせる加茂市をつくっていくことをお約束いたします。皆様、ぜひ一緒に令和という新しい時代にふさわしい新しい加茂市をつくっていきましょう。

以上で、市長就任にあたっての所信といたします。



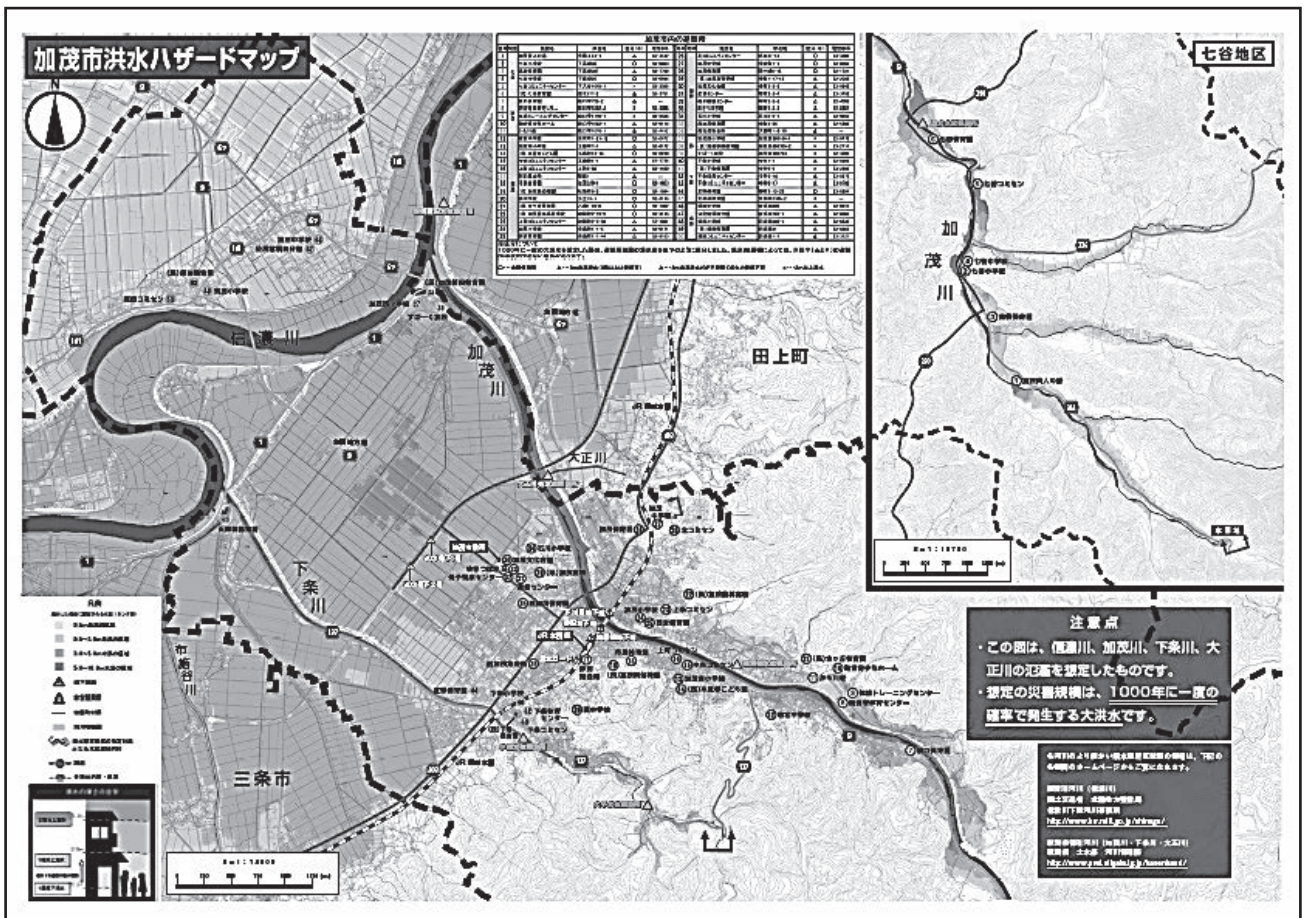
「洪水ハザードマップ」を作成しました

大雨等に伴う信濃川・加茂川・下条川・大正川の氾濫時に市民の皆様から迅速な避難行動をとっていただくため、浸水想定区域や避難場所などを記載したハザードマップを作成・配付しました。

このマップは、千年に一度の大洪水を想定し、市内各河川が氾濫した場合のものを重ね合わせた図となっています。

ご自宅の浸水想定や避難場所、災害時の連絡方法などを事前にご家族でご相談するなどして万が一の事態に備え、市から避難情報が発令された際は、迅速な避難行動を心がけてください。

ご不明な点等ございましたら、総務課総括係（☎内線321）へご連絡ください。



平成16年7月と平成23年7月の豪雨時の様子

第44回 市民大学講座



今年で第四十四回となる、市民大学講座が五月二十七日に開講しました。
五月二十七日から七月十五日までの毎週月曜日（第三講は六月十二日）の午後七時（最終講の七月十五日は午後二時）から、全八回の講義を行います。
また、今年度は全八回に加え、特別研修として八月五日に保内の古民家再生家屋、長岡の災害復興建物等を巡る実地研修が予定されています。

ここでは、第一講から第三講までの概要を写真とともにご紹介します。

5/27

第一講「高齢者の栄養と飲み込み」
新潟医療福祉大学 健康科学部
准教授 永井 徹さん



元気に長生きをするために「口から食べる」ということの意義について①加齢で骨格筋減少と脱水に陥りやすい身体に、たんぱく質と水分を補うため②小腸のもつ細菌や毒素の通過を阻むバリアー機能は、小腸を使うことで保たれるから③消化管を経由する栄養摂取が、ホルモン分泌のリズムを調えること④口を使うことで唾液が分泌され口腔内の清潔が保たれ、たとえ誤嚥をしても肺炎のリスクは低減すること、以上四つの意義と、⑤筋肉を動かすことでの健康効果は多様で全身におよぶことを、かみ砕いてお話いただきました。

6/3

第二講「農泊について」
～観光は地域を救うことができるのか。～
新潟経営大学 観光経営学部
教授 出口 高靖さん



高齢化率は上昇し、出生数が100万人を切った日本において、空き家と耕作放棄地と土地所有者不明が全国で問題となっています。さらに、地方既存の商業施設を取り巻く環境が悪化している中で、ここ数年国内外からの国内旅行者数や旅行消費額が堅調に増加しています。グリーン・ツーリズムや地域の観光資源をその経済性だけでなく、地域社会の持続に寄与させる為には、強い情熱、熱い心を持った地域の住民自身によるコミュニティビジネスへの理解が必要です。

6/12

第三講「いまさら人に聞けない、デジタル入門」
～4K・8Kテレビってなあに～
三条市生涯学習ボランティア
ITリーダー 田村 栄一さん



パソコン講座の受講生から聞いた話を基に「デジタル入門」として、最近よく聞くIT関連の用語を身近な例を用いて説明していただきました。「IH」「ハイレゾ」「フルセグ」といった、家電関連の用語の説明もしていただきました。「4K・8Kテレビ」は、今現在放送されている方式と比べてよりきめ細やかな映像が見られます。一方、4K・8K放送のチューナーが内蔵されていないテレビではチューナーが必要です。ただしこれはBS（衛星放送）の話で、地上波は4K・8K放送への切り替えはないだろうといわれています。

約1,500人の市民が参加

6月2日 加茂川一斉清掃



六月二日、朝の澄みわたる青空の下、加茂川一斉清掃となりました。市内協力団体の方や小中学生を含め約千五百人の市民の皆様のご協力により、可燃ごみ約6t、ビンや缶等の不燃ごみ約80kgを処分できました。加茂川一斉清掃は二巡目国体を前に市を挙げて行ったのが始まりです。その後水害や河川改修で中断されていましたが昭和四十八年に環境衛生協議会の主催で再開され、昭和五十四年から毎年行われる行事として定着しています。



カメラ スケッチ



神明町1丁目の皆さんが参加した初期消火訓練（左）と消防署救助隊による救急救助訓練



春季消防演習（5月26日）

消防団員・消防署員あわせて400人以上が参加した春季消防演習が、加茂小学校やグラウンドで開催されました。その後は、新しくなった活動服を身にまとった消防団員や、出動車両40台が駅前から分列行進を行い、最後に、河川敷でポンプ車が放水訓練を行いました。



樹高4mに育ったつるバラ

冬鳥越スキージャーデンバラ園

今シーズンのバラは例年よりも1週間程度早く見ごろを迎えました。バラの成長期に雨が降らず、よい気候だったため順調に育ち、病気にもかかからず元気に花が咲きました。

色とりどりのバラが咲き、優しい香りにも包まれる園内には、花時計や市指定文化財「モハ1」「モハ61」「ED1」もあり、多くの皆さんが見学に訪れていました。

秋には四季咲きのバラが咲く予定です。





学校歯科健診のお話

高校生以下のお子様は、春に歯科健診がありました。むし歯は無かったですか？

新潟県のむし歯ですが、文部科学省の平成30年度学校保健統計調査では、12歳児（中学1年）の永久歯のむし歯数は全国で最も少なく、0.3本となり、19年連続日本一を達成しています。また、新潟県の中学1年生から高校3年生までのむし歯有病者の割合は、すべての学年において全国で最も低い結果でした。

しかし、昔からむし歯が少なかったわけではありません。昭和56年当時は12歳児の90%以上がむし歯をもち、一人平均むし歯数が5本以上という状況でした。

新潟県は県歯科医師会、大学、県教育委員会等と連携を図りながら、学校等における集団フッ化物洗口や、学校と歯科医院が連携したむし歯予防対策を積極的に推進し、現在の結果に至ります。

さて、歯科健診の内容ですが、

むし歯に関しては、むし歯の歯は「C」、むし歯を治療した歯は「O」、むし歯でも初期の状態のものを「CO」（注1）でチェックしています。

また、むし歯以外にも次のことを歯科健診の際に診ています。（保育園や幼稚園等の歯科健診は、若干健診内容が異なります）

- ・ 歯並びやかみ合わせの状態
- ・ 顎関節の状態
- ・ 歯垢（口の汚れの状態）
- ・ 歯肉の状態

歯垢や歯肉の状態がチェックされた方は、歯周病が疑われます。歯周病は、むし歯とともに歯の周りの歯周組織の病気です。歯周病になると、歯肉や歯槽骨（歯を支える骨）を悪くするだけでなく、全身の色々な病気の引き金や増悪（病気の悪化）の原因とも言われています。

さて歯科健診の結果ですが、診

療室とは条件が異なり照明や口の中を診る姿勢が違いますので、口の中の状態の記録が異なることもあります。（特に、白い詰め物）

歯科健診の結果の用紙をもらわなかったから良かったと思わず、気になることがあれば早めに歯科医院への受診をお勧めいたします。もちろん、用紙を頂いたお子様は、早めに歯科医院へ受診しましょう。

歯の病気（むし歯）は、残念ながら放置しても治ることはありません。

注1 CO（シール）…要観察歯
COは、歯の表面が白く濁った状態になったり、かむ面の溝の所が着色した状態をいいます。

（加茂市歯科医師会）



歯っぴいスマイル（6月9日）でのフッ素塗布の様子

カメラ スケッチ

五月二十六日、文化会館でNPO法人 骨髄バンク命のアサガオにいがた10周年記念事業が開催されました。そのなかで開かれたシンポジウムには、俳優の木下ほうかさんが、骨髄提供経験者としてパネリストを務めました。



「クールビズ」 （軽装） 実施します

加茂市役所では六月一日から十月三十一日まで、クールビズ（ノーネクタイ・ノー上着）を実施します。期間中は職員が軽装になります。市民の皆様のご理解をよろしくお願いたします。



芦ノ出 日吉神社の昭和再興と番場春雄

狭口の芦ノ出に鎮座する日吉神社拝殿に、日本画家の番場春雄（一九一〇〜一九七）による額装の

絵（游鯉図）が奉納されています。木枠に「絵事上達祈願」の願文と「昭和九年五月廿日」の日付が入り、彼が上京して日本画家の郷倉千靱に師事した昭和十五年より以前、独習時代の作品と知られます。日吉神社の創立は古く、寛和二年（九八六）とされています（『加茂市史』資料編1）。しかし、国は日露戦争後に社寺、とりわけ神社の財政基盤を強化する施策を打ち出し、小社の合併を推進しました（神社整理）。市域ではこの動

きに抵抗する向きもあり、長福寺の諏訪神社は本殿・幣殿を改築し、規模を広げて財産を増やし神社を



番場春雄筆「游鯉図」

木枠 左側



木枠 右側



維持しましたが（本紙563号）、日吉神社は明治四十年（一九〇七）、赤谷の諏訪神社ともども長瀬神社（八幡）境内社の諏訪神社へ合祀されることになりました。

大正〜昭和になると、戦前に布かれていた社格制度（神社に県社・郷社・村社・無格社などの等級を付ける制度）のもと、国・県へ昇格を願い出る動きが各地で起こりました。これにあわせ、合祀を経た集落では復社（再興）を願うようになり、芦ノ出は昭和九年、赤谷では昭和二十八年に実現します。つまり、九年五月の日付を持つ「游鯉図」は、日吉神社の再興にあわせて描かれたことになりました。一点一画をゆるがせにせず、息苦しいほど緊張した筆致で、三匹の鯉が泳ぐ様子を細密に描いています。芦ノ出の農家の子弟であった春雄もまた、日吉神社の再興を待望した熱心な氏子の一人だったのでしよう。画業向上の志とあいまって奉納された本作は若い覇気に満ち、長い彼の画歴にあっても特別な地位を占めています。

（中澤資裕）

あいちとっく

社会福祉費寄付金
 ▼全国松坂・小唄日本一大会
 実行委員会から
 五千八百五十九円

行政情報アプリ「マチイロ」導入

加茂市では、より身近で、手軽に広報を見られる行政情報アプリ「マチイロ」を導入しました。このアプリを使えば、皆さんのスマートフォンやタブレットで最新の「広報かも」や「お知らせ版」が見られます。ぜひご利用ください（利用料は無料ですが、通信料は利用者の負担です）。

マチイロ

人口のうごき

6月1日現在
 世帯 10,236 (± 0)
 人口 26,945 (-42)
 男 13,111 (-7)
 女 13,834 (-35)
 () 内は前月比
 (5月異動分)
 出生 11 (男 7 女 4)
 死亡 32 (男 9 女 23)
 転出 49 転入 28